

校内研修動画【B-4】

評価の工夫

愛媛県総合教育センター
教科教育室

愛媛県総合教育センター

Ehime Prefectural Educational Research Center

校内研修動画【B-4】

評価の工夫

研修のねらい

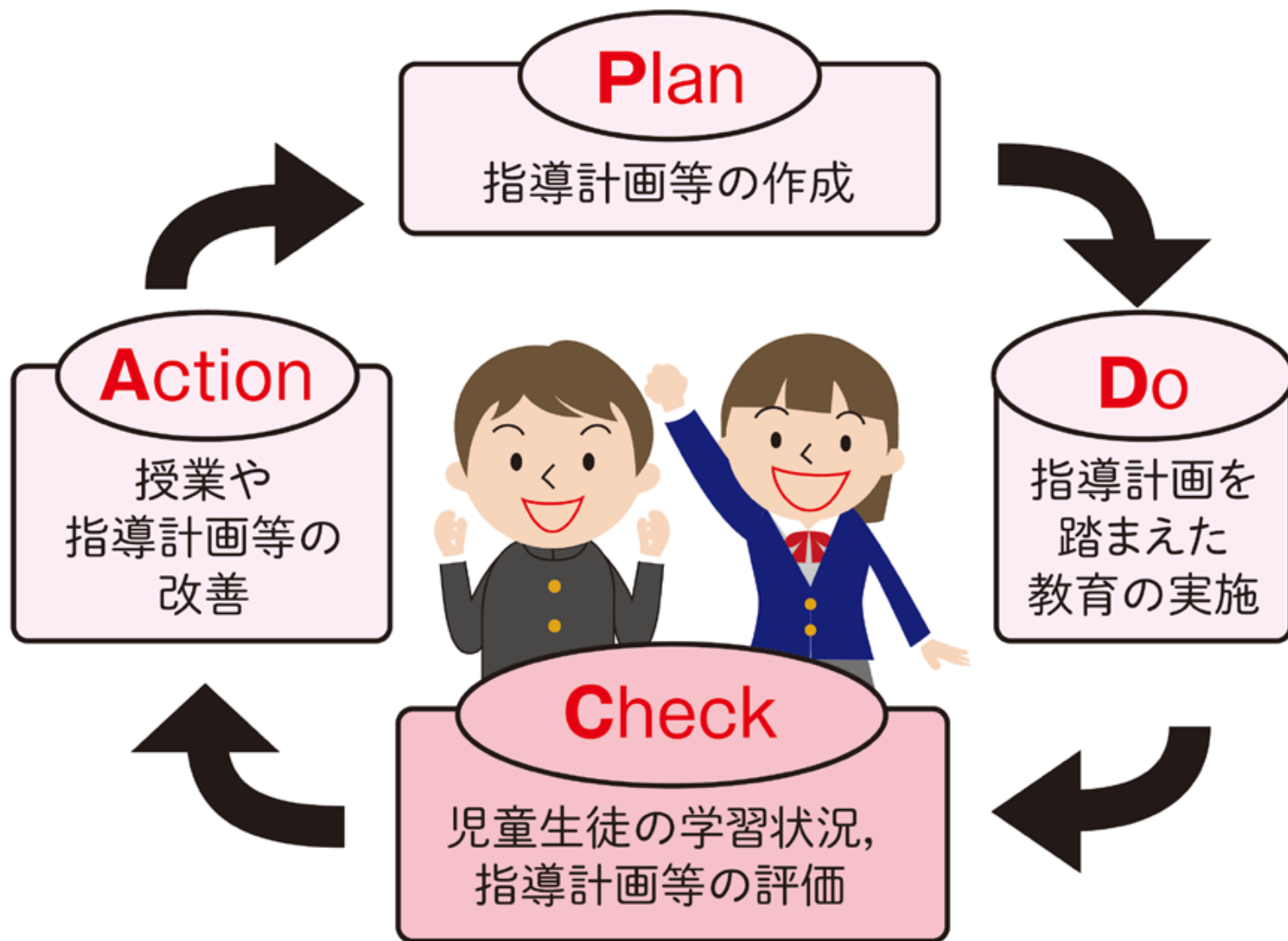
学習指導要領の趣旨を生かした
学習評価について理解を深め、評
価の方法について考える。

学習評価とは？

学習評価：学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するもの

「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められます。

カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価、 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善と評価



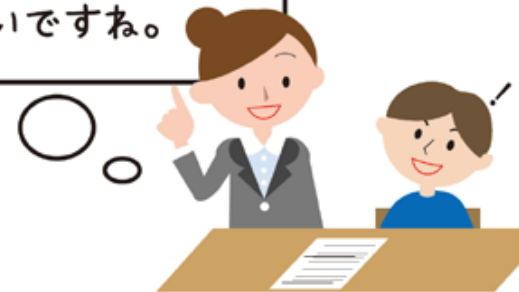
学習評価の改善の基本方針

- ☑ 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ☑ 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ☑ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

次の授業では
〇〇を重点的に
指導しよう。



〇〇のところは
もっと~した方が
よいですね。



観点別学習状況の評価の観点の整理

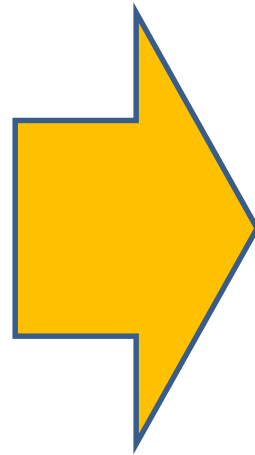
資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理。

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解



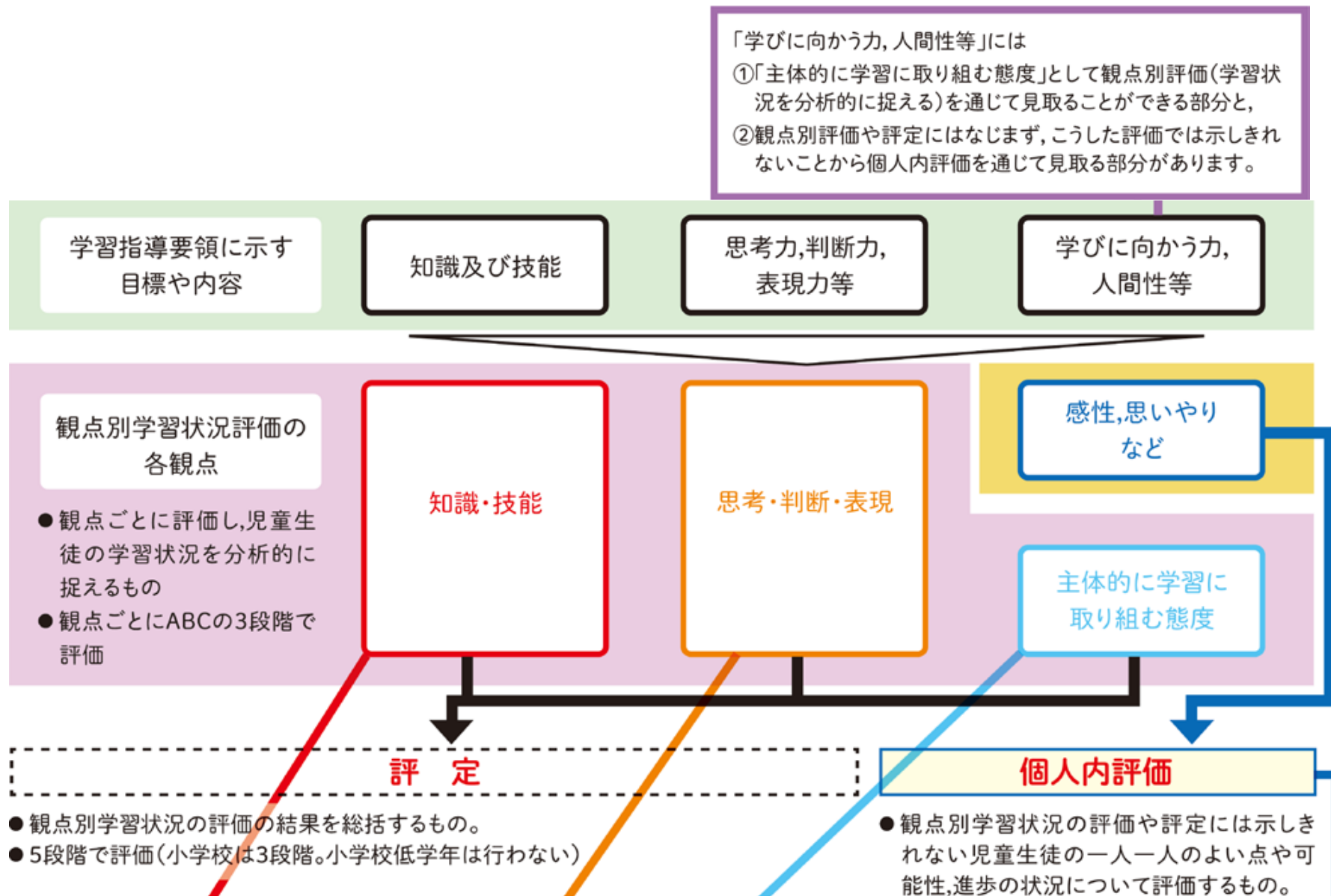
<新学習指導要領>

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に
取り組む態度

各教科における評価の基本構造



「知識・技能」の評価

「知識・技能」


一つ一つ個別に評価できる性質をもった知識や概念（の理解）を評価する観点

評価する内容

知識および技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既
有の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生
活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得した
りしているか

評価の工夫(例)

ペーパーテストにより知識の習得を問う問題や、知識の概念的な理解を問
う問題をバランスよく出題する。
文章による説明をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技
能を用いる場面を設ける。



「知っている・できる」レベルのみならず「わかる」レベルも含め
た評価をする工夫が求められる。

「思考・判断・表現」の評価

「思考・判断・表現」

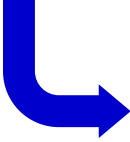
一つ一つ個別に評価できないような能力を評価する観点
思考や判断等の洗練の程度やレベルを評価する

評価する内容

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうか

評価の工夫(例)

ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループや学級における話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れる。



パフォーマンス課題に基づく評価など
ポートフォリオを活用するなどの評価方法の工夫

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」

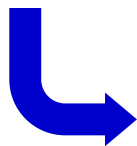
「学びに向かう力・人間性等」のうち個人内評価で見取る部分（個人のよい点や可能性など）を除く部分

評価する内容

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面

評価の工夫(例)

ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いる。



各教科の特質に応じて、児童生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

学びに向かう力、人間性等

観点別学習状況の評価にはなじまない部分
(感性、思いやり等)

②

「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分

①

個人内評価（児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価するもの）等を通じて見取る。

※ 特に「感性や思いやり」などの児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などについては、積極的に評価し、児童生徒に伝えることが重要

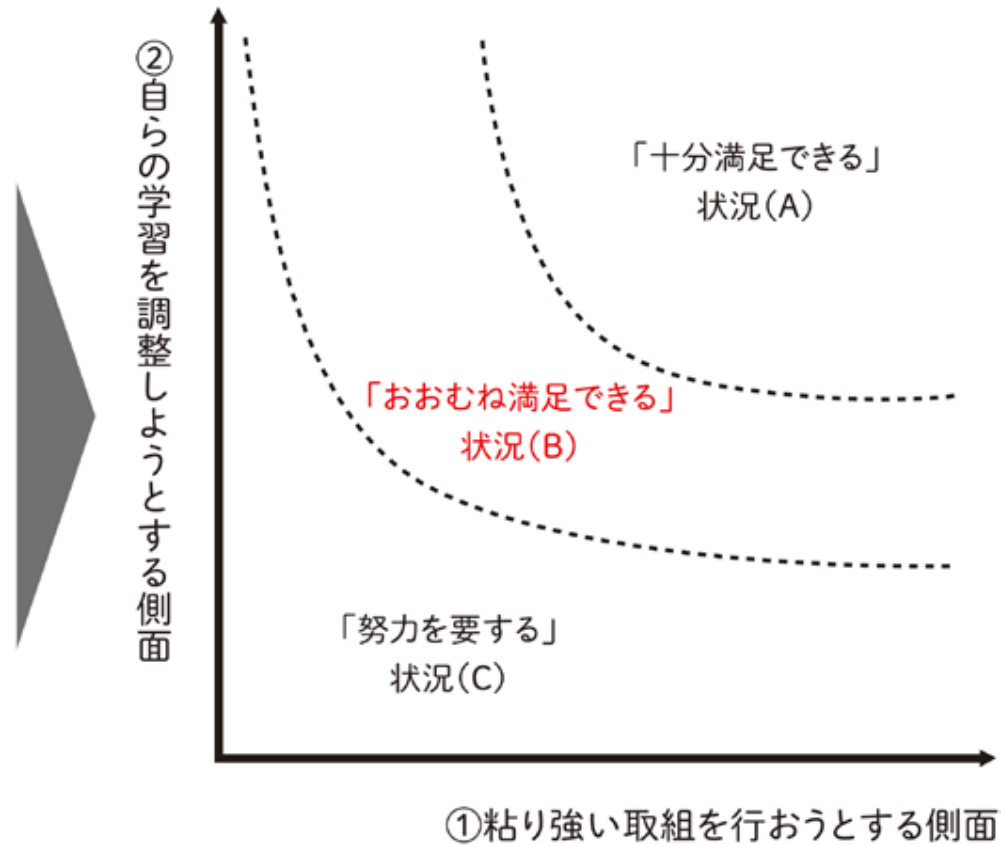
知識及び技能を獲得したり、思考力、判断、表現力等身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかを含めて評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



「自らの学習を調整しようとする側面」 とは・・・

- ・ 自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面

評価に当たっては

- ・ 児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫
- ・ 自らの考えを記述したり話し合ったりする場面を設ける
- ・ 他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を設ける

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

主体的に学習に
取り組む態度

関心・意欲・態度

同じ趣旨ですが

こんなことで評価をしていませんか？

- ・ 挙手回数
- ・ 毎時間のノートを取っているか
- ・ 性格、行動面の傾向が一時的に表出されている場面

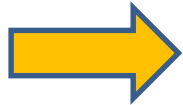
「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

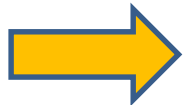
知識及び技能の習得

思考力、判断力、表現力等の育成

これら2つの場面に関わって行うものである



その評価の結果を、教師の指導や児童生徒の学習の改善にも生かし、バランスのとれた資質・能力の育成を図るという視点が重要



この観点のみを取り出して、例えば挙手の回数など、その形式的態度を評価することは適当ではなく、他の観点に関わる児童生徒の学習状況と照らし合わせながら学習や指導の改善を図ることが重要

評価時期の工夫の例

●観点別学習状況の評価を行う場面の精選

観点別学習状況の評価に係る記録は、毎回の授業ではなく、単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに行うなど、評価場面を精選する。

※日々の授業の中では児童生徒の学習状況を把握して指導に生かすことに重点をおくことが重要

演習 25分

グループ協議



【協議内容】（25分）

「学習評価における現状
と課題について」

※一つの教科に特化しても構わない。

学習評価の具体例について

パフォーマンス評価とルーブリック



パフォーマンス評価

スピーチ、プレゼンテーション、演奏、歌唱のような発表や実演活動など多くの場面で、パフォーマンスの内容や態度を評価することがある。

ルーブリック

どの程度できたらA～Cとするなどと評価の基準を示した一覧表を作成しておくことで評価の基準がぶれない。

【ループリックの例】 小学校外国語科 (話すこと [発表])

パフォーマンス課題

交流プログラムで出会う海外の小学生に自分が紹介したい地域の良さ（食べ物、行事、遊び）を発表しよう。

	A (5)	B (3)	C (1)
内 容	地域についての説明や感想を適切に伝えていた。また、単語や文を付け足して相手の理解を深める内容となっていた。	伝えたいものを選んで調べ、地域についての説明や感想を伝えていた。	お手本を使った発表にとどまっていた。
声 (大きさや明瞭さ)	大きく明瞭な声で、感情を込めて話すことができた。	相手に届く声で話せたが、時々不明瞭で分かりにくかった。	声が小さく、伝わりにくかった。
コミュニケーションの態度 (目線、積極性)	アイコンタクトをしっかり保ち、用いたスチヤーを豊かに話すことができた。	アイコンタクトにも目を付けていたが、消極的な態度であった。	アイコンタクトがあまりなく、積極性が見られなかった。

学習評価の工夫

【ルーブリックの例】 (話すこと [発表])

小学校外国語科

	A (5)	B (3)	C (1)
	地域についての説明や感想を適切に伝え	伝えたいものを選んで	
	相手と分かり	相手に伝わりやすかった。	よくかった。
コミュニケーションの態度 (目線、積極性)	アイコンタクトをしっかりと保ち、豊かに話したことができた。	アイコンタクトにも積極的にあつた。	アイコンタクトがあまりなく、積極性が見られなかった。

一貫性を持った採点

信頼性・妥当性

教員と児童生徒が
評価規準・目標
を共有

見通しを持って
意欲的に学習

I C T 機器を評価に活用

(効率的な評価実施のために)

○タブレット端末でパフォーマンスを録画

- 1 個人やグループの発表を指導者が録画、児童生徒同士で録画しデータを集約
- 2 授業後にルーブリック表を用いて一貫性を持った公平な評価に

複数の目で見ること、評価の妥当性・信頼性を高める

学習評価の妥当性、信頼性を高める工夫の例

※例えば以下の取組が考えられる。

- 教師同士での評価規準や評価方法の検討、明確化
- 実践事例の蓄積・共有
- 評価結果の検討等を通じた教師の力量の向上
- 校内組織（学年会や教科等部会等）の活用

学校全体としての組織的かつ計画的な取組

○ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料



国立教育政策研究所HPからダウンロードできます
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryuu.html>



愛媛の子どもたちのために